



今こそ批判的思考 (Critical thinking) を

専攻長 中野博之

2022年も新型コロナ禍で始まってしまいました。新型コロナウイルスは日本社会の様々な問題を明らかにしました。その中でも特に、嘘とは言わないまでも都合よくデータをつまみ食いした言説を発する人々があまりにも多かったことは本当に残念でなりませんでした。小学校で学習するグラフの見方や割合の知識程度のことも分かっていないのではないかと思いますとともに、発言をしている人々は私たち一般人がその主張の危うさを見抜けないとも思っているのかと考えると、まさに学校教育の敗北であると思ってしまうました。今、改めて批判的思考 (Critical thinking) の育成の必要性を痛感しております。「批判的」という言葉から「批判的思考」は揚げ足取りや欠点探しのことと捉えられることがあります。教育学では「批判的」は「論理的」「客観的」「合理的」「分析的」「多角的」といったものの複合体として捉えられています。また、こうした思考の育成には答えが一つに定まらない問題に協働で取り組むことが有効であるとも言われています。新型コロナウイルスは、子どもたちが多角的に考え多様な見方を提示し合う授業の必要性を示したのだと考えれば、この2年間に渡る困難も無駄ではなかったと少しは思えます。



「対面」と「オンライン」により「令和3年度 教育実践研究発表会」を開催

昨年11月7日、2年次院生の中間報告会を実施いたしました。これまでの取組の報告に対しましての示唆に富んだご助言に、今後の取組の方向性を確認することができました。また、ホームカミングデーでは、修了生の発表に実践研究課題への取組の大きなヒントをいただきました。それをもとに取組を深化させ、実践研究に励んでおります。

その成果と課題を発表すべく、2月10日(木)10:00から弘前大学にて、「対面」と「Zoomによるオンライン」を併用しながら、「教育実践研究発表会」を実施いたします。発表会のリーフレットは、弘前大学教職大学院のホームページ (URL: <https://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/gs/pdotteachers.html>) に掲載しております。事前申込みは、1月31日締切とさせていただいておりますが、当日会場に直接ご来場いただいても参加可能です。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によりましては、急遽実施方法を変更することもございます。そのときは改めて教職大学院のホームページ「新着情報」でご連絡いたしますので、近くなりましたらそちらをご確認ください。皆様のご参加を心よりお待ちしておりますとともに、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。



昨年度の年次報告会

2年次院生からのメッセージ 最終報告会に向けて

M2ミドルリーダー養成コース 阿部 哲人
テーマ：生徒が主体的に健康な生活を送るための健康教育の在り方

—全校体制で取り組む体力・健康づくりを通して—



2年間の教職大学院での学びを振り返ると様々なことが思い出されます。授業（講義）、集中講義、実習（各学校園、教育関連施設、実習ⅡA）等、何れも普通の学校現場では学ぶ

ことのできない貴重な機会を与えていただきました。本当に充実した2年間を過ごすことができました。2年目のまとめの時期になり、さらに多くのことを学びたいと感じています。この充実した学びをこれからの学校現場（生徒理解や保護者、同僚等との連携や協働）にどのように生かしていくかが今後の課題であると感じています。また、この教職大学院での様々な出会いを大切にしてください。これからも教育活動に邁進していきたいと思っております。

M2ミドルリーダー養成コース 木村 忍
テーマ：確かな「数学的な見方・考え方」の育成を目指した取り組みについて
—授業改善の視点を持ち続けるために—



ミドルリーダーとは、中堅として後輩を見守り育成し、また学校全体に目を向けて新しい風を送り込める、そんな存在だと思います。私自身はこの2年間の学びを通して、ミドルリーダーになれたというより自分自身を見つめ直すことができたと感じています。研究テーマは授業改善ですが、教職大学院での学びがなければ授業改善に取り組もうという気も起こらなかったかもしれません。この場を借りて、関係者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

M2ミドルリーダー養成コース 齋藤 朗
テーマ：「組織としての学校の力」を高めるための校内研修の在り方

—対話型校内研修の実践をとおして—



1年目は、大学院で校内研修の在り方について思いを巡らせながら、様々な講義をとおして学び、その知識を生かして校内研修計画を設計しました。2年目の今年度は、日々の実

践に私のねらいを含ませ、研究と教育活動の両立を図りました。大学院での学びが実りあるものであったかどうかは、成果が出てこそだと思います。今回の最終報告会では、未熟ながらも2年間、どのように学校に貢献するか考え続けた成果を発表します。発表に対し忌憚のないご指導・ご助言をいただくことで、これからの活動に役立てたいと思います。よろしくお祈りします。

M2ミドルリーダー養成コース 佐藤 雄大
テーマ：逆向き設計による農業科の授業づくり
—高等学校 農業科 果樹 単元「果樹の栽培と管理・評価（リンゴ）」—



教職大学院の2年間は、コロナ禍にありながら、これまでの教員経験で感じた様々な疑問や課題を省察することができた貴重な機会となりました。ミドルヤストマスの仲間にも恵ま

れ、充実した協議を重ねられたことは私の財産です。実践研究では勤務校の生徒や先生方に支えていただき感謝しております。大学院生としての学びは今年度で終わりますが、これからも青森県の教員として、省察力や課題探究力を磨き、ミドルリーダーとして協働的に校務に取り組んでいきます。

M2ミドルリーダー養成コース 澤田 夕香子
テーマ：地域づくりに参画する態度を育む「ふるさと学習」

—総合的な学習の時間を中心に—

地域づくりに参画する態度を育む「ふるさと学習」の展開について実践研究を進めてきました。総合的な学習の時間を中心として、地域の方や勤務校教員の協力を得ながら、子どもたちが地域のことを



知り、地域の「価値あるもの」を見つめ、地域のことを考える授業実践を行いました。最終報告会では、本研究での取り組みの実際と、子どもたちの変容から得られた成果、また、その

中で浮かび上がった課題等について報告させていただきます。

M2ミドルリーダー養成コース 相馬 昌文
テーマ：望ましい行動を引き出す学習環境づくりと児童の規範意識の育成について
－PBISとSELの活用を中心に－



この2年間教職大学院で学んだことがたくさんありました。まず、一番は現場を離れて今までを振り返ることができたことです。そこから今までの自分のやり方とは別の方法を

落ち着いて考えることができました。現在の研究テーマであるポジティブな行動介入と支援（PBIS）の実施及び社会性と情動の学習（SEL-8S）についても教職大学院での学びがあったからこそやってみようと思いました。最後にアンケートや調査などお忙しいにもかかわらず実践研究に協力して下さった先生方に感謝してしっかりとがんばっていきたいと思います。

M2ミドルリーダー養成コース 山本 隼人
テーマ：生徒の社会的能力を育み学校適応感を高めるための取組について
－SEL-8Sプログラムの実践と学校適応感尺度アセスの活用を通して－



校種や世代をこえて様々な経験や考え方を交流させ、教育について広く見つめ直した昨年、そして、気持ちを新たに教育現場に向き合ったこの1年間は、自分にとって本当に貴重な経験になったと感じています。「生徒たちによりよく学校生活を送ってほしい」そんなシンプルな

願いのもと、これまで実践研究に取り組んできました。報告会ではSEL-8Sプログラムによる一次支援及びアセスを活用した二次的支援への取組を中心に成果や実践上の課題について報告したいと思います。最後になりますが、実践研究にご協力くださった所属校の先生方とご指導くださった教職大学院の先生方に対し、心から感謝申し上げます。

M2ミドルリーダー養成コース 六角 健太
テーマ：特別支援学校高等部における朝の運動（体育）の効果的な取組について
－卒業後に自ら健康や体力の維持・向上に努めていくために－



知的障害特別支援学校高等部における、卒業後の健康的自立を確立していくための効果的な取組について、1年目は大学での様々な講義や論文・文献精読を中心に、そして2年目は

勤務校において、実践研究に係る協力をいただきながら取り組むことができました。最終報告会ではアンケートやインタビュー調査などから得られたデータと、課題解決に向けて実践した内容等から、研究の成果と課題についてお伝えしたいと思っております。

M2学校教育実践コース 佐藤 絢音
テーマ：UDLに基づいた十分な教育の実現を目指す授業づくりに関する研究
－UDLガイドライン7の視点での手立てを通して－



教職大学院での2年間は本当にあっという間で、今までで一番充実した学生生活でした。このように感じる事ができたのは、様々な出会いがあったからです。校種の違う先生や仲間

と共に学び、語り合った時間全てが将来の自分にとって掛け替えのない財産です。講義や実習では、多くの壁にぶつかりましたが、指導教員や仲間と省察等を繰り返しながら突き進んでいったことで、納得のいく研究にも辿り着くことができました。一人の人間としても成長することができたと思います。

この2年間の学びを途絶えさせることなく、来年度から青森県の一教員として学びを深めながら子ども達と共に成長できるように頑張ります。先生方、院生の皆さん、今までありがとうございました。

M2 学校教育実践コース 鳥山 純大
テーマ：「主体」への変容を目的とした道徳科授業研究

ーガート・ビースタの「中断」の教育を踏まえた発問の構想ー



本大学院の案内には、「理論的支えを持った根拠に基づき実践を行い、そこでの子どもの実態を踏まえて成果と課題を明らかにしていく」力が肝要であると書かれています。私は

入学から2年間、こうした理論と実践の往還に努めてきました。本大学院で学んだことが教育実習において意味をもち、それを再び自分の中で解釈し実践につなげる。そんな螺旋形で図示されるような学びの成果が、私の研究に表れています。そうした学びの集大成として、最終報告会ではこれまでの成果と課題を報告させていただきます。

M2 教科領域実践コース 澤田 有里
テーマ：高等学校体育における主体的・対話的で深い学びに関する一考察

ー生徒の思考活動を取り入れた授業実践を通してー



私は、2年間「体育における主体的・対話的で深い学び」に関する研究をしました。生徒の実態に合わせた授業づくりや、生徒の主体性を引き出すために手立てを工夫するなど、

生徒にどんな力を身に付けてもらいたいかを念頭に置きながら取り組んできました。上手いかず悩んだこともありましたが、授業の最後に生徒から「先生の授業が楽しかった」「上手くなれた」「バレーが好きになった」などと温かい言葉をかけてもらうことができ、頑張って良かったと思うことができました。今後もこれまでの学びを活かして頑張っていきたいと思います。

M2 特別支援教育実践コース 笹原 佳華
テーマ：他者とかかわり、主体的に活動に取り組むことを目指した授業づくり
ー自立活動と日常生活の指導の関連付けを通してー



私は教職大学院に入学してから、授業づくりについてより深く考えるようになりました。講義や演習、実習等での学びを通して、子どもがわかりやすく、楽しめるような授業にする

には、事前準備や環境設定、そして何よりも普段からの子どもたちとの関係作りや、実践後の省察が重要と捉えています。指導してくださった教職大学院や実習先の先生方にはとても感謝しています。現場でも、これまで学んできたことを子どもたちへの教育に還元できるよう努めていきます。

**1年次院生からのメッセージ
年次報告会に向けて**

M1 ミドルリーダー養成コース 大平 慎悟
テーマ：協働的な組織文化の醸成
ー校内研究の充実を通してー



学校における協働的な組織文化を醸成していくことは、諸問題へのチームでの対応や教員相互の学び等の必要性が高まりを見せる現在において、非常に大切になってくると考えま

す。そこで「学習する組織」の要素を校内研究に取り入れ充実させていくことにより、全体最適化への取組が校内研究にとどまらず、日常的な学び合いへと広がり、協働的な組織文化が醸成されていくのではないかと考え本テーマを設定しました。実践研究に向けてご指導・ご協力をくださった教職大学院の先生方、そして勤務校の先生方に感謝を忘れず、今年度の報告会、そして次年度の研究を進めていきたいと思いま



M1ミドルリーダー養成コース 葛西 彩
テーマ：よりよい人間関係を構築するための学級づくりの在り方
～SEL- 8Sプログラムの活用を通して～



「一人ひとりが学校生活をより楽しむためには」「明日も登校したい学校になるためには」ということを考えながら教職大学院での学修を進めていくうちに、「社会性スキルを身

につけることができれば、もっと人とうまく関わりをもつことができ、学校生活が楽しくなるのではないか」と思い、本研究テーマを設定しました。先行実践した学年の結果をもとに、指導計画の立案や学習したスキルを身につけさせるための指導の工夫についての検討に取り組み、また、お忙しい中アンケート調査や授業実践に協力してくださった先生方に感謝し、来年度の実践研究に繋げていきたいと考えます。

M1ミドルリーダー養成コース 金田一大輔
テーマ：全ての生徒の教育的ニーズに応える個別最適化された授業の在り方
～UDLの認知のネットワークの視点に着目して～



令和3年中央教育審議会で、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現が提言されました。個別最適な学びとは何か考えながら大学で学ぶ中で、

生徒自身が学び方を選択し、授業に主体的に取り組むことを目指す「学びのユニバーサルデザイン(UDL)」を知りました。UDLは個別最適な学びと親和性が高く、勤務校の校内研究目標である主体的に学ぶ生徒の育成にも合致すると考え、本研究に取り組むことにしました。研究に協力してくださる勤務校と教職大学院の先生方に感謝しながら、次年度につながる報告会になるように頑張ります。



M1ミドルリーダー養成コース 須藤千代子
テーマ：知的障害特別支援学校小学部の生活単元学習における学習評価のあり方
～各教科等と関連づけた目標の設定と学習評価の方法～



4月から講義で理論を学び、院生同士の意見交流、実習、省察を重ねていく中で、これまでの経験や実践を振り返り、反省することもあれば、新しい視点に触れ、心が震えるような思いをもつ

こともあり、中身の濃い1年であったと感じています。次年度からは学習評価に焦点をあてて、これまでの学びをどのように生かしていくのか、課題に対してさらに実践研究を深めていきたいと思ひます。

M1ミドルリーダー養成コース 田中 美紀
テーマ：知的障害のある生徒に対するキャリア発達を促すホームルーム活動の在り方に関する研究
～目標設定、振り返りと対話に着目して～



勤務校に赴任してからこれまで、生徒一人一人が夢や志をもち、切磋琢磨しながら成長する姿を間近で実感してきました。また、社会で輝く姿からも「内面の育ち」の重要性を感じています。

本実践研究では、生徒の「なりたい」「ありたい」姿の自己実現に向けて、仲間同士の「対話」を大切にしたいと取り組むを充実させたいと考えています。今年度温かくご指導くださった教職大学院の先生方、勤務校教職員の皆様に感謝し、よりよい実践研究につながる報告会にしたいと思います。

M1ミドルリーダー養成コース 成田 悠仁
テーマ：子どもの学びの事実を見取り深める授業研究デザインに関する一考察
～校内研修における授業参観と研究協議会を中心～



年次報告会では「子どもの学びの事実を見取り深める授業研究デザイン」というテーマで発表し

ます。大学院での学びを通して、私は子どもの見取りのスキルこそ教員に求められる専門性の原点ではないかと考えるようになりました。本研究は、校内研修を通して子どもの学びの事実を見取り深めるスキルを高める方法を追究することを目的としています。少しでも現場の先生方に還元できる研究になるよう頑張ります。

M1 ミドルリーダー養成コース 平山しのぶ
テーマ：自己効力感を育む授業づくり
 —「自己目標」と「教師のフィードバック」に着目して—



生徒たちと対話していると自尊心が低く、「どうせ自分は何をやってもできない」と話します。自尊心の構成要素である自己効力感に着目し、授業の中で向上させることができ

れば、自分に自信を持ってものごとを考えることができるのではないだろうかと考えました。小さな積み重ねが生徒たちへの自信となり、いずれは自らの力で未来を切り拓いていくことができるようになるのではないかと考えています。先行研究を参考に、自分なりに授業方法を研究し、実践していきます。

M1 ミドルリーダー養成コース 元木 龍太
テーマ：主体的な学習者の育成を目指す自主学習の指導

—一人一人の特性に適した学習方略の活用を通して—



教職大学院で学び始めて早一年。先生方の講義や仲間たちとの演習、学校での実習や教育施設の訪問を通して、教育の「奥深さ」や「重要性」を改めて認識しているところです。それ

と同時に、未来の子どもたちのため、そして共に働く先生方のために自分ができることは何だろうかと思問自答する日々を過ごしています。来年度、私が現場に戻り取り組む研究は「自主学習の実践方法」です。勤務校の先生方からアイデアとアドバイスをもらいながら、成果を残せるように今後も精進したいと思います。

M1 学校教育実践コース 伊藤 未祐
テーマ：思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実に向けて
 —「学び合い」による効果と課題について—



私の研究は、思考力・判断力・表現力の育成に向けた「言語活動の充実」を目指し、生徒同士による対話と協働を主体とした「学び合い」を行うことによる効果検証と課題把握を

目的としています。国語科において、子どもたち一人一人が課題発見・解決に向け、主体的に「伝え合う力」や「思考力・想像力」をはたらかせる姿を思い浮かべながら、次年度に向けた研究の焦点化や具体的な取組の構想につなげていきたいと思ひます。

M1 学校教育実践コース 葛西 泉花
テーマ：保健だよりを活用した養護実践のあり方



私の実践研究は、生徒が自分の心身の健康を自律的に考えて、意思決定し、行動を選択できるようになることを目的としています。人々の適切な健康行動にはヘルスリテラシーが

重要な役割を果たしており、本研究では保健だよりの紙面を活用してその向上を図ります。報告会では、これまでの実践や調査を踏まえ、次年度に繋がる発表ができればと思っています。

M1 学校教育実践コース 仲村みなみ
テーマ：より良い人間関係づくりを目指した心の健康教育



私は現代の子どもが抱える、コロナ禍におけるコミュニケーションの不足に課題意識をもち、「より良い人間関係の構築」を目指した授業づくりについての研究を進めています。

今年度は小学5年生を対象に、保健学習や学級活動での心の健康教育の実践をしました。そこから、児

児童が主体的・対話的に授業に取り組むことができるような工夫が必要だと考えました。今後は、児童の興味を引き出すための教材・教具等の検討に取り組んでいこうと思います。

M1 教科領域実践コース 木村 郷
テーマ：運動に対する好意的感情の向上を目指して～運動有能感からの検討～



私は生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力の育成に着目しています。年次報告会では、これまでの授業実践から得られた成果や課題を、1年間の学びの

まとめとして発表し、その結果をもとに今後の研究をどう展開していくかについても伝えていきます。また、たくさんの方からの意見をいただきたいと考えており、自身の更なる成長へとつなげていきたいと思っています。

M1 教科領域実践コース 島津 杏佳
テーマ：生徒が多様な音や音楽と関わりながら主体的に参加する中学校音楽科の授業づくりー「鑑賞」の授業を通してー



これまでの実習の省察を行うと、生徒との関係づくりにおいて、一人一人と深く向き合うためには、より視野を広げて積極的に関わろうとすることが大切であることを実感しました。

また、授業づくりにおいて、取り上げた教材から、限られた時間のなかで1番生徒に伝えたいことは何かということを確認にする必要があることを痛感するなど、たくさん学びを得ることができました。年次報告会では、実践に対する課題点や新たな気づきを明らかにしながら、今年度の取り組みを十分に伝えることができるよう、引き続き省察を続けていきたいと思っています。



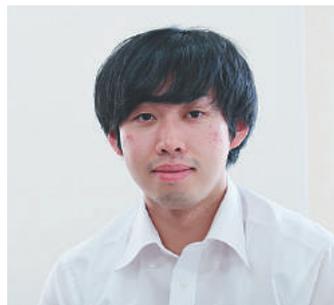
M1 教科領域実践コース 中川 大輝
テーマ：地域教材を生かした社会科授業実践



私の研究内容は小学校社会科において、地域のもを扱う意義や効果とはどのようなものかです。今年度は実践を基にした研究報告ではなく、来年度の実践のためにどのよう

なことを考えているのかを報告できたら良いなど思っております。私自身まだまだ足りないのですが、小学校社会科の授業をどのようにすれば良いか困っている先生方への一つの例としてまとめられるように頑張ります。

M1 教科領域実践コース 中島 柗太
テーマ：中学校における対話的な学びを活用した授業改善の研究



～平面図形における生徒のつまずきに焦点を当てて～

今年度の年次報告会ではこの一年間、自分なりの教育について考え続けてきた成果を、自分の研究テーマに沿って伝え

たいと思っています。私のテーマは「中学校における対話的な学びを活用した授業改善の研究～平面図形における生徒のつまずきに焦点を当てて～」です。数学の授業を対話的な学びを通してどのように改善していけるかを、数学に対する意識の向上という視点から考えました。年次報告会に向けて、最後の詰めを行っていききたいと思います。

M1 教科領域実践コース 濱谷 大輔
テーマ：数学の必要性を実感できるための教員の働きかけー数学的モデル化に焦点を当ててー



現代社会の様々な場面で数学が活用されているにも関わらず、生徒が数学の有用性を実感できていない現状に課題を見出し、本研究を進めるに至りました。その際に注目したのが

「数学的モデル化」という考え方です。数学の応用において重要とされている「数学的モデル化」を取り入れた授業実践を通じて、数学を学ぶ意義や意欲等の、生徒の数学に対する意識の変容の分析に取り組んでいます。年次報告会では、これまでの研究を整理するだけでなく、多くの方から様々な意見もいただくことで、自身の研究をより明確化できればと考えています。

M1 教科領域実践コース 三浦 峻敬
テーマ：中学校数学科における学びに向かう力の育成
一粘り強く考える態度を養う授業づくり



私は「学びに向かう力、人間性等」の育成について、中学校数学科ではどのような授業づくりができるか研究しています。また、研究や実習校での授業実践を通して、自分の教材

研究力や授業力の向上も図りたいと考えています。報告会では、今年度の研究と実践について十分に伝えられるよう精一杯努め、次年度の研究に生きるような発表ができればと思います。

M1 教科領域実践コース 宮野 純
テーマ：理科の生物における思考力を育成する授業づくり



この年次報告会は、1年間の学びやフィールド実習の成果の集大成だと思っています。なので、1年間の集大成を十分に発表できればなと思っています。今回私が発表するテーマは、

「理科の生物における思考力を育成する授業づくり」です。しっかり発表できるよう努力しますので、よろしくお願いたします。



M1 教科領域実践コース 森川 喜介
テーマ：数学科の授業におけるノート・ワークシート・タブレットの特性に応じた学習効果について



現在、年次報告会に向けて報告書を作成しています。研究のテーマ名は「数学科の授業におけるノート・ワークシート・タブレットの特性に応じた学習効果について」となっ

ていますが、研究を進める中で「数学の楽しさ」について考えていきたいと思い、研究内容が変わりました。今回の年次報告会では上記のテーマ名で発表しますが、次回から研究テーマを変更して発表します。約一年間取り組んできた実践の結果を、発表を聞いてくださる皆様に分かっていたように頑張りたいと思います。

M1 特別支援教育実践コース 野村 直樹
テーマ：知的障害特別支援学校における自己選択・自己決定を支えるホームルーム活動
一継続した目標設定と省察によるキャリア発達支援



弘前での初めての冬を迎えました。神奈川県と比べると全く異なる、雪のある生活を楽しみながら充実した日々を過ごしております。実習校の方々、教職大学院の方々の協力があり、

無事に後期フィールド実習を終えることができました。授業計画、実践、振り返りで多くの気づきがあり、より良い指導ができるようにこれからも取り組んでいきます。これまでの取り組みを振り返りながら年次報告会に向けて良い準備をしていきたいです。

〈編集・発行〉

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻
 (教職大学院) News Letter 第15号 2022.2.1発行
 〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
 Tel 0172-36-2111(代表)
 メールアドレス k-daigaku01@hirosaki-u.ac.jp
 HP 弘前大学教育学部 (教職大学院をクリック)
 弘前大学教職大学院 入試フォローアップ部会